

相互作用による有害事象を考慮し、内服薬の休薬を提案した例

プレアボイドとは薬学的ケアから患者の不利益（副作用、相互作用、治療効果不十分など）を回避あるいは軽減した事例を意味します。今回は、新たに開始された薬剤との相互作用を確認することで、安全な薬物治療に貢献できた事例のプレアボイドを紹介いたします。

患者背景

F さん

▶慢性骨髄性白血病に対する治療目的

【持参薬】 アムロジピン錠 5mg 1 回 2 錠 朝食後

【新しく開始された薬剤】 スプリセル錠 50mg 1 回 2 錠 朝食後



スプリセルが開始されてから血圧が低下傾向だなあ。
スプリセルの副作用に「低血圧」があるけど、併用薬との相互作用も考えられる。
担当の先生に相談してみよう。



薬剤師



医師

お疲れさまです。
なんでしょうか？

お疲れさまです。
F さんのことで相談があります。

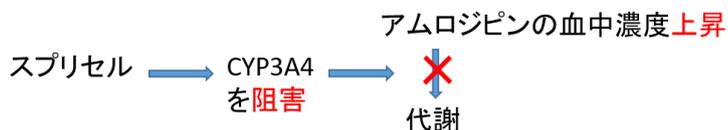


スプリセルが開始されてから血圧が低下傾向です。
相互作用が考えられるアムロジピンを休薬してはどうでしょうか？
スプリセル添付文書の「併用注意」には

【CYP3A4 の基質となる薬剤の血中濃度が上昇する可能性がある。】

と記載があります。

降圧作用のあるアムロジピンは、CYP3A4（薬物代謝酵素の一つ）の基質（酵素が働く薬）のため、スプリセルとの併用で血中濃度が上昇し、血圧を過度に下げている可能性があります。



なるほど。一度、アムロジピンの内服をやめてみましょう。ありがとう。

アムロジピンは一旦休薬となり、血圧はスプリセル内服開始前と同等まで改善した。
内服薬の相互作用を考慮することで過度な血圧低下を防ぎ、安全な薬物治療に貢献できた。